

動向

## 中国における中日語彙対照研究の動向 2014

彭 広 陸

本稿は、主にここ2年来中国で刊行された中日語彙対照研究の学術書を簡単に紹介することを目的とするものである。

1

何宝年著『中日同形詞研究』（中日同形語研究）、東南大学出版社（南京）、2012年12月

同書の目次は下記の通りとなっている。

- 第一章 中日漢字の字形比較研究
- 第二章 「中日同形語」の定義
- 第三章 中日同形語の語義相違の要因
- 第四章 中日同形語と語構成
- 第五章 中日同形語の品詞性比較
- 第六章 中日同根語について
- 第七章 中日同形語と受身
- 第八章 時空を表す中日同形語
- 第九章 中日同形語と数量詞
- 第十章 「写」のついている中日同形語
- 第十一章 中日同形語の誤用
- 終章

5年がかりで完成した同書は、中日同形語を体系的に取り上げて、多方面にわたるアプローチを試みようとする力作であり、今後の中日同形語の研究にとっては重要な参考文献となると思われる。第六章では「中日同根語」が扱われている。「中日同根語」については、「中日両国語にある同じ起源を持っている漢字語」と規定されているが (p.250)、「中日同源語」と呼ぶべきところだろう。第十一章は、「中日同形語の誤用」となっているが、その調査の結果は特に日本語教育に有益なものである。

## 2

于冬梅著『中日同形異義漢字詞研究』(中日同形異義漢字語研究)、厦門大学出版社(厦門)、2013年6月

李無未編集の『東亞漢語史書系』(東アジアにおける中国語史研究叢書)の一冊として刊行された同書は、著者の博士学位論文であるが、その目次を挙げてみる。

- 第一章 緒論(序論)
- 第二章 中日同形異義漢字詞性質、類型及研究模式(中日同形異義漢字語の性質、類型及び研究法)
- 第三章 中日同形異義漢字詞生成與演進(中日同形異義漢字語の生成と変化)
- 第四章 中日同形異義漢字詞存在的形態差別(中日同形異義漢字語の語形的相違)
- 第五章 中日同形異義漢字詞的接受與攝取(中日同形異義漢字語の受容)
- 第六章 中日同形異義漢字詞学習與教学方略(中日同形異義漢字語の学習と教育のストラテジー)
- 第七章 清末北京官話常用中日同形異義漢字詞——以《日清會話辭典》等為依拠(清末北京官話における常用中日同形異義漢字語——『日清會話辭典』を例に)
- 第八章 余論(余論)

書名にあるように、同書は、中日同形語の中の、意味の異なるものを取り上げて考察を行っている。そして、中国語教育または日本語教育の立場から同形語を研究するところに特色がある。特に著者が長年の中国語教師の経験を活かし、日本人学生（留学生）を対象に中国語教育を行う視点からアプローチしたのが第六章である。一方、第七章では、従来の中日同形語の研究において見落とされてきた古い資料を研究対象に据えることができたのは、歴史的な観点を持っているからであろう。とにかく一読に値するものである。

### 3

崔崑・丁文博著『日源外来詞探源』（日系外来語の語源研究）、世界図書出版広東有限公司（広州）、2013年1月

同書は、「2010年度河北省社会科学発展研究課題（2010年度河北省社会科学発展研究プロジェクト）」の研究成果であり、下記のような目次となっている。

- 1 日源外来詞の歴史沿革（日本語由来の外来語の歴史の変遷）
- 2 回帰借詞身份論考（回帰借用語の語源的考察）
- 3 原語借詞的語言特征（原語借用語の言語的特徴）
- 4 日源外来詞新詞（日本語由来の外来語における新語）
- 5 漢字、漢字詞與社会文化（漢字・漢字語と社会文化）

付表（省略）

従来の研究成果を踏まえて体系的に中国語における日本語からの外来語を研究しようとするものである。特に第1章では、時代別に日本語由来の外来語を考察したことが特徴的である。第5章では、漢字、漢語、中日同形語、日本語における新語及び文化との関係を幅広く論じているものの、内容的に日本語からの外来語とは関係の薄いものである。

4

常暁宏著『魯迅作品中的日語借詞』（魯迅の作品に用いられた日本語借用語）、南開大学出版社、2014年5月

同書は著者の博士学位論文として刊行されたものであるが、その章立ては次の通りとなっている。

第一章 緒論（序論）

第二章 魯迅作品文本的調査範圍及研究方法（魯迅の著作に対する調査範圍及び研究方法）

第三章 魯迅作品中的日語借詞（魯迅の著作における日本語からの借用語）

第四章 魯迅作品中的日語借詞的数量和特点（魯迅の著作における日本語からの借用語の数量と特徴）

第五章 魯迅留日時期翻譯文本分析（魯迅の日本留學期間中における訳書への分析）

第六章 《漢語大辭典》中含有魯迅用例的詞條和日語借詞（『中国語大辭典』における魯迅による用例が含まれた見出し語と日本語からの借用語）

付録（省略）

大文豪であり、日本留學経験者である魯迅の著作に見られる日本語からの借用語を体系的に研究した最初の本格的な専門書であり、注目に値するものである。特に巻末の付録が豊富で利用の価値が高い。

5

吳侃・金玺罌・張穎著『漢語新詞的日訳研究與伝播調査』大連理工大学出版社、2013年9月

同書は、中国教育部基金の科学研究プロジェクトである《国際伝媒背景下的漢語新詞日訳研究》（グローバルメディアを背景とした中国語における新

語の日本語訳研究)の成果である。共著となっているのだが、執筆の主幹は呉侃氏である。目次は次の通りである。

- 第1章 単詞的翻訳與新詞 (単語の翻訳と新語)
  - 第2章 来自国外的詞 (外国からの単語)
  - 第3章 日源性漢語新詞 (日本語由来の中国語の新語)
  - 第4章 本土産生的詞 (本国生まれの語)
  - 第5章 漢日新詞詞典的編写 (中日新語辞典の編纂)
  - 第6章 漢語新詞在日本的傳播調查 (中国語の新語の日本での流布に対する調査)
- 結束語 (結び)

中国が改革開放の時代に突入して以降、数多くの新語が生まれてきた。そういう新語がどのように日本語に訳されているのか、それに関する研究は手薄であった。同書はその研究領域の最初の研究書であり、特に辞書の編纂に関する論述が貴重である。

## 6

以下に2014年に発表された中日語彙研究の論文のタイトルなどを掲げておく。

- ①邵艷紅「中日同形語「保守」に関する一考察」『漢日語言対比研究論叢』第5輯 (北京大学出版社、2014年10月)
- ②呉琳「類義の慣用句に関する意味分析—「怒り」を表す中日慣用句を例に—」『漢日語言対比研究論叢』第5輯 (北京大学出版社、2014年10月)
- ③施暉・栾竹民「“性向詞彙”的漢日対比研究—以“大方の人”為中心」『漢日語言対比研究論叢』第5輯 (北京大学出版社、2014年10月)
- ④任川海「關於漢語和日語的“然”的対比研究」『日語學習與研究』2014年第5号